

職場体験 感想文コンクール2025

タイトル	働く意味とは	事務局	206
学校名	酒田市立第二中学校	氏名	田村 彩音

私にとっての働く意味。それは「生活するため」、「生きるため」だと思っていた。生きるためにはお金が必要不可欠である。そのお金を稼ぐために働かなければならない。いわゆる義務のような存在だと思っていた。しかし、私の考えは変わった。職業体験や、身近で働いている人の話を聞いていうちに考えの変化を感じた。職業体験では自衛隊に行くことになった。あ、職場というものに行く機会が学校以外にないため、緊張した。ヒリヒリしているのだろうと思っていたが、優しい方々が迎えてくれて緊張がほぐれたのを感じている。体験内容は2日間盛りだくさんで、1日目は整列や敬礼、簡単な道具でできるテント張りだったり、手信号、業務説明、月齢などを求めたりした。2日目は東根市の駐屯地に行き、戦車見学やLANケーブル接続、偽装体験、寮のご飯を実際食べたりした。

「自衛隊」は主に3つの仕事を行う。①国の防衛。領土、領海、領空の取りしめ等を行う。②災害派遣。都道府県知事からの要請に、出動する3つの条件「緊急性」(差し迫った必要性があること)、「公共性」(たくさんの方が困っている)、「非代替性」(自衛隊以外に適切な手段がないこと)を満たしている場合、出動する。しかし、緊急性が高い場合は要請を待たずに出動することもあるそう。③国際貢献。国際平和協力活動、紛争地域のインフラ整備や人道支援、大災害発生時の輸送・医療・給水活動等をすることもある。こう聞くと、すごく難しい内容に感じるかもしれない。「自衛隊=体力が必要、運動能力が必要」という考えがしみついていのも事実だ。私もそうだった。死ぬかもしれない、怖い仕事。筋トレや体力作りだけだと思っていた。確かにそういう職種もあるが、そうではない職種の方が多。約100個の職種がある。陸上、航空、海上の3つに分かれるが、そこから枝分かれするようにあり、陸上自衛隊だと約16種になっている。例えば「普通科」、地上戦闘の骨幹部隊。「機甲科」、

戦車の正確な火かに優れた機動力が必要になる。陸上以外にも航空の航空交通管理、飛行(パイロット)、約30種の職種がある。

海上は海上交通の安全確保を始め、海上を警戒監視したり、海上だけの仕事だけでなく、衛生、気象、音楽もあり約50種の職種がある。

私が今回の職場体験を通して学んだこと。それは、あまり身近ではない

目につかない仕事はまだたくさんあって、どれも欠かせないものであるということだ。

将来どの仕事に就くのが不安に思っている自分もいたけれど視野を広げて考えて

みるのもありだなと思った。先生、医者、警察、美容師、保育士などの

身近な職業はもちろんのこと、お店の店員さん、介護士、第一次産業や

物流、生活必須職従事者の方々や、自衛隊のような災害派遣などの

緊急時に活躍する方々など、何一ついらない職業がない。

将来に不安を持っていたけれど、職場体験を通して楽しみが増えた気がする。

私は将来、どんな仕事に就いているのだろうか。働いた時、その時の私に聞きた

たい。「どんな思いでこの仕事をしているの？働く意味は？」

まだ働いたことがないから正直よく分からない。だからこそ働いた時の

私に聞いてみたいとも思った。実際、自衛隊の方々は「やりがいがある」と

おっしゃっていた。仕事のやりがいが生きがいにつながるなんてどれだけ素敵

なんだろう。みんなそう考えているのか？と考え、母に働く意味を聞いた。

すると、「子どもができるまでは自分の可能性を広げたり、成長するために働いて

いたけれど、子どもができたら生活をするため、子どものために働いている」

といていた。自分のためではなく、人のために命を懸けて働いている人もいるんだなと

実感した。私はまだ自分中心の狭い世界にいて、社会のことなどまだほんの少し

も知らないのだと思う。でもこうやって生活しているのは身近な職業から、もっと

幅広い職業、一つ一つが積み重なって組み合わさっているからこそ今のなんだなと、

学生の私にも「社会」を学べた気がした。学生だからまだ大丈夫。ではなく、

学生だからこそ吸収できる知識、経験を大事にして伸ばしていきたいと思った。

今の私の努力は自分のこれからの可能性につながると信じて、自分のために働いて

くれている人、関わってくれて応援してくれている人のためにも「ありがとう」の言葉を

忘れずに頑張っていきたいと思った。最後に、働いてくれているみなさん、本当にあ

りかとうございます。